

2027年度 大学入学共通テスト 予想問題0

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

情 報

〔『情報Ⅰ』〕

(100 点
60 分)

I 注 意 事 項

- 1 この問題冊子は、35 ページあります。
- 2 解答用紙に、正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

II 解 答 上 の 注 意

解答上の注意は、裏表紙に記載してあります。問題冊子を裏返して必ず読みなさい。

(下 書 き 用 紙)

情報 I の試験問題は次に続く。

(下 書 き 用 紙)

情報 I の試験問題は次に続く。

情 報 I

(全 問 必 答)

第 1 問 次の問い(問 1 ～ 4)に答えよ。(配点 20)

問 1 次の問い(a・b)に答えよ。

- a 次の文章を読み、空欄 アイウ, エ～カ に当てはまる数字をマークせよ。

実数をコンピュータで扱う形式の一つに、32 ビットの単精度浮動小数点形式がある。この形式では、実数を $(-1)^s \times 1.f \times 2^{e-127}$ ($1.f$ は 2 進法の小数) と表し、先頭から符号部 s (1 ビット)、指数部 e (8 ビット)、仮数部 f (23 ビット) を並べる。例えば、1.5 は 2 進法で 1.1×2^0 なので、 $s = 0$ 、 $e = 127$ 、 f は $1000 \cdots 0$ となる。

-0.15625 をこの形式で表すと、指数部 e を 10 進法で表した値は アイウ であり、仮数部の上位 3 ビットは エオカ である。

- b 次の文章を読み，空欄 **キ** に当てはまる数字をマークせよ。また，空欄 **ク** に入れるのに最も適当なものを，後の解答群のうちから一つ選べ。

複数の磁気ディスクを組み合わせる一つの装置として扱う技術に **RAID** がある。容量 2TB のディスク 4 台で RAID5 を構成すると，データを保存できる容量は **キ** TB となる。RAID の各方式に関する記述として最も適当なものは **ク** である。

ク の解答群

- ⑩ RAID0 は、データを複数のディスクに分散して書き込むので、1 台が故障してもデータを復元できる
- ⑪ RAID1 は、同じデータを2 台のディスクに書き込むので、保存できる容量はディスク1 台分になる
- ⑫ RAID5 は、パリティを1 台のディスクにまとめて書き込むので、2 台が同時に故障しても復元できる
- ⑬ RAID を構成していれば、誤って削除したファイルも復元できるので、バックアップは不要である

問 2 次の文章を読み，空欄 ケコ, サシスセ に当てはまる数字をマークせよ。

ある装置の平均故障間隔(MTBF)が 480 時間，平均修復時間(MTTR)が 20 時間であるとき，この装置の稼働率は $MTBF \div (MTBF + MTTR)$ で求められ，0. ケコ である。

この装置と同じ稼働率のサーバ 2 台を並列に接続し(どちらか一方が稼働していればよい)，さらに同じ稼働率の負荷分散装置 1 台を直列に接続したシステムの稼働率は，小数第 5 位を四捨五入すると 0. サシスセ である。

問 3 次の文章を読み、空欄 ソタチ, ツテト, ナニヌ に当てはまる数字をマークせよ。

CPU が命令を実行する過程を、命令の取り出し、解読、オペランドの取り出し、実行、結果の書き込みの 5 段階(ステージ)に分け、各ステージに 1 ナノ秒かかるとする。一つの命令の全ステージが終わってから次の命令を始める方式では、100 個の命令を実行するのに 500 ナノ秒かかる。

これに対し、各ステージを並行して動かし、1 ナノ秒ごとに次の命令を開始するパイプライン方式では、100 個の命令を実行し終えるまでに ソタチ ナノ秒かかる。ただし、命令の間で待ちは発生しないものとする。

また、100 個の命令のうち 10 個は分岐命令であり、分岐命令の後にはそれぞれ 2 ナノ秒の待ちが発生するとすると、ツテト ナノ秒かかる。

なお、クロック周波数 2GHz の CPU で、1 命令の実行に平均 4 クロックかかる場合、この CPU は 1 秒間に平均 ナニヌ 百万個の命令を実行できる。

問 4 次の文章を読み，空欄 **ネ** ～ **ハ**， **ヒ** に当てはまる数字をマークせよ。また，空欄 **フ** に入れるのに最も適当なものを，後の解答群のうちから一つ選べ。

4 ビットのデータ $d_1 d_2 d_3 d_4$ に 3 ビットの検査ビット p_1, p_2, p_4 を加えた 7 ビットを，位置 1 から順に $p_1 p_2 d_1 p_4 d_2 d_3 d_4$ と並べて送る方法(ハミング符号)を考える。検査ビットは，次の三つのグループそれぞれに含まれる 1 の個数が偶数になるように定める。

グループ1 位置 1, 3, 5, 7

グループ2 位置 2, 3, 6, 7

グループ3 位置 4, 5, 6, 7

データ 1101 を送るとき、 $p_1p_2p_4$ は **ネ** **ノ** **ハ** となる。

受信側では、各グループの 1 の個数を調べ、奇数であるグループの番号の値（グループ 1 は 1，グループ 2 は 2，グループ 3 は 4）を足し合わせる。その値が 0 でなければ、その値の位置のビットに誤りがあると判断して反転させる。

7 ビット 1010001 を受信したとき、この値は **ヒ** となる。

なお、送信中に 2 ビットが同時に反転した場合、この方法では **フ**。

フ の解答群

- ④ 必ず 2 ビットの誤りを検出して両方とも訂正できる
- ① 誤りがあることを必ず検出できず、常に値は 0 になる
- ② 誤りのない別のビットを誤りと判断して反転させてしまい、正しいデータに戻らないことがある
- ③ 検査ビットだけが反転するので、データには影響しない

第2問 次の問い(A・B)に答えよ。(配点 30)

A 次の文章を読み、後の問い(問1～6)に答えよ。

Z社では、社員50人が社外の取引先と安全にデータをやり取りする方法を検討している。暗号方式には、暗号化と復号に同じ鍵を用いる**共通鍵暗号方式**と、対になる公開鍵と秘密鍵を用いる**公開鍵暗号方式**がある。

問1 次の文章中の空欄

ア	イ	ウ	エ
---	---	---	---

 ,

オ	カ	キ
---	---	---

 に当てはまる数字をマークせよ。

50人の誰と誰の間でも、他の人に知られずにやり取りできるようにする場合、共通鍵暗号方式では、二人の組ごとに異なる鍵が必要なので、鍵は全部で

ア	イ	ウ	エ
---	---	---	---

 個必要になる。一方、公開鍵暗号方式では、一人あたり公開鍵と秘密鍵の1組を用意すればよいので、鍵は全部で

オ	カ	キ
---	---	---

 個で済む。

問2 公開鍵暗号方式は共通鍵暗号方式に比べて暗号化・復号の処理に時間がかかる。そこで、大きなデータを送るときは、データを共通鍵(**セッション鍵**)で暗号化し、そのセッション鍵を公開鍵暗号方式で暗号化して一緒に送る方法(**ハイブリッド暗号方式**)が使われる。このとき、セッション鍵の暗号化に用いる鍵として最も適当なものを、次の①～③のうちから一つ選べ。

ク

- ① 送信者の公開鍵
- ② 受信者の公開鍵

- ③ 送信者の秘密鍵
- ④ 受信者の秘密鍵

- 問 3 図 1 は、デジタル署名の仕組みを表したものである。図 1 の空欄 **ケ**
- ・ **コ** に入れるのに最も適当なものを、後の解答群のうちから一つずつ選べ。

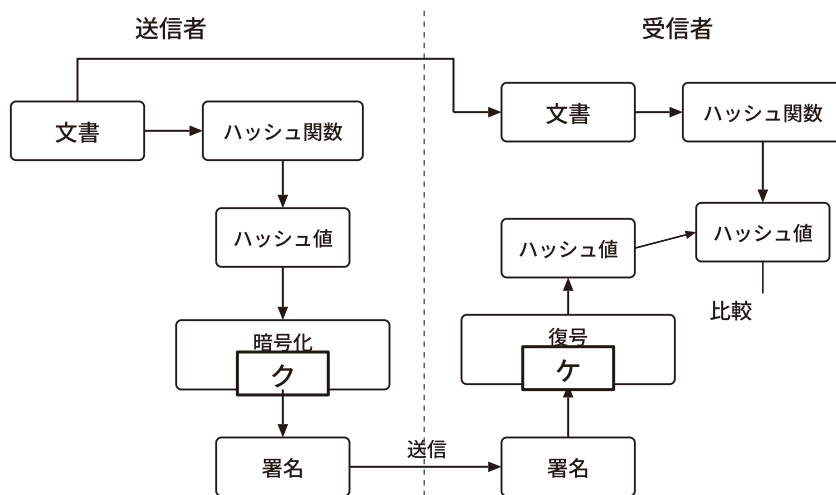


図 1 デジタル署名の仕組み

ケ ・ **コ** の解答群

- | | |
|-----------|-----------|
| ① 送信者の公開鍵 | ④ 送信者の秘密鍵 |
| ② 受信者の公開鍵 | ③ 受信者の秘密鍵 |

問 4 デジタル署名に関する記述(a)～(c)の正誤の組合せとして最も適当なものを、後の①～⑦のうちから一つ選べ。 サ

- (a) 受信者が計算したハッシュ値と、署名を復号して得たハッシュ値が一致すれば、文書が途中で改ざんされていないことを確認できる。
- (b) 署名の検証に成功すれば、送信者が後から「その文書は自分が送ったものではない」と否認することを防ぐ根拠になる。
- (c) デジタル署名を付ければ、文書の内容は暗号化されるので、第三者に文書の内容を読まれることはない。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
(a)	正	正	正	誤	正	誤	誤
(b)	正	正	誤	正	誤	正	誤
(c)	正	誤	正	正	誤	誤	正

問 5 受信者が送信者の公開鍵を入手するとき、その公開鍵が本当に送信者のものであることを確かめる仕組みが必要である。この仕組みに関する記述として最も適当なものを、次の①～③のうちから一つ選べ。

シ

- ① 送信者が、自分の秘密鍵を電子メールで受信者に送り、受信者はそれを使って公開鍵を作り直して確認する。
- ② 受信者が、送信者の公開鍵をハッシュ関数に入力し、得られた値が送信者の名前と一致するかを確認する。
- ③ 電子証明書は一度発行されると有効期限内に失効させることはできないので、秘密鍵が漏えいしても証明書はそのまま使い続けられる。
- ④ 認証局(CA)が、公開鍵とその所有者の情報に自らの秘密鍵で署名した電子証明書を発行し、受信者は認証局の公開鍵で証明書の署名を検証する。

問 6 Web サイトとの通信を暗号化する TLS では、セッションごとに使い捨ての鍵を用いて鍵を共有する方式が推奨されている。この方式の利点として最も適当なものを、次の①～③のうちから一つ選べ。 ス

- ① 電子証明書が不要になるので、サーバの正当性を確認する必要がなくなる。
- ② サーバの秘密鍵が将来漏えいしても、過去に記録された通信の内容が解読されにくい。
- ③ 通信速度が速くなるので、ハッシュ関数を使う必要がなくなる。
- ④ 共通鍵暗号方式を一切使わずに通信できるようになる。

B 次の文章を読み、後の問い(問 1 ～ 4)に答えよ。

一つの CPU で複数のプロセスを実行するとき、OS はどのプロセスに CPU を割り当てるかを定める(スケジューリング)。表 1 の五つのプロセスについて、いくつかの方式を比較する。ここで、各プロセスが到着してから処理が完了するまでの時間をターンアラウンドタイムと呼ぶ。プロセスの切替えにかかる時間は考えないものとする。

表 1 プロセスの到着時刻と処理時間(単位はミリ秒)

プロセス	A	B	C	D	E
到着時刻	0	1	2	4	6
処理時間	5	3	8	2	4

- FCFS** 到着順に、一つのプロセスの処理が終わるまで CPU を割り当てる。
- SJF** CPU が空いた時点で到着しているプロセスのうち、処理時間が最も短いものに、処理が終わるまで CPU を割り当てる。
- SRT** プロセスが到着するたびに、残りの処理時間が最も短いプロセスに CPU を割り当てる(実行中のプロセスを中断することがある)。
- RR** 到着順の待ち行列の先頭のプロセスに、一定時間(タイムクウォンタム)だけ CPU を割り当て、終わらなければ待ち行列の末尾に戻す。

問 1 次の文章中の空欄 ，， に当てはまる数字をマークせよ。

平均ターンアラウンドタイムは，FCFS では ミリ秒，SJF では ミリ秒，SRT では ミリ秒となる。ただし，SRT で残りの処理時間が等しい場合は，先に到着したプロセスを優先する。

問 2 次の文章中の空欄 ，， に当てはまる数字をマークせよ。また，空欄 に入れるのに最も適当なものを，後の解答群のうちから一つ選べ。

RR でタイムクォンタムを 2 ミリ秒とする。ある時刻に新しいプロセスの到着と，実行中のプロセスの中断が同時に起きた場合は，到着したプロセスを先に待ち行列に加える。このとき，時刻 8 ミリ秒から 10 ミリ秒までに実行されるのはプロセス であり，処理が完了する順でプロセス D は 番目である。また，プロセス A のターンアラウンドタイムは ミリ秒，平均ターンアラウンドタイムは ミリ秒となる。

ヒ の解答群				
① A	② B	③ C	④ D	⑤ E

問3 スケジューリング方式に関する記述として最も適当なものを，次の①～③のうちから一つ選べ。 フ

- ① RR は，平均ターンアラウンドタイムを最も短くできるので，常に他の方式より優れている。
- ② SJF や SRT では，処理時間の短いプロセスが次々に到着すると，処理時間の長いプロセスがなかなか実行されないことがある。
- ③ FCFS では，処理時間の長いプロセスが先に到着しても，後から到着した短いプロセスの待ち時間には影響しない。
- ④ SRT は，各プロセスの処理時間を事前に知る必要がないので，実際の OS でそのまま実現しやすい。

問 4 RR でタイムクォンタムを小さくしていくと，どのようなことが起こるか。最も適当なものを，次の①～③のうちから一つ選べ。 へ

- ① プロセスの切替えの回数が減るので，CPU の処理効率が上がる。
- ② タイムクォンタムを十分に小さくすると，RR は FCFS と同じ動作になる。
- ③ 各プロセスが最初に CPU を割り当てられるまでの時間は短くなりやすいが，プロセスの切替えの回数が増え，切替えにかかる時間の影響が大きくなる。
- ④ タイムクォンタムの大きさは，ターンアラウンドタイムに一切影響しない。

第3問 次の文章を読み、後の問い(問1～5)に答えよ。(配点 25)

Nさんは、地点1～6を結ぶ道路網で、地点1から各地点までの最短距離を求めるプログラムを作成している。図1は道路網を表したものであり、線上の数値は道路の距離(km)を表す。

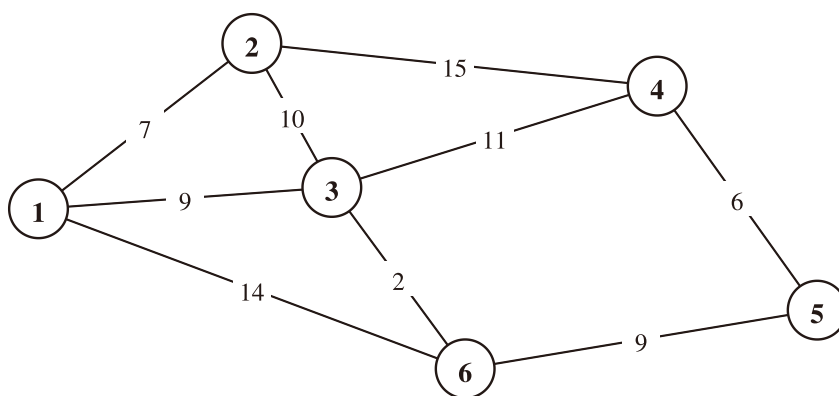


図1 道路網

Nさんは、次の方法(ダイクストラ法)を用いることにした。

- 手順1 地点1の距離を0、それ以外の地点の距離を十分に大きな値とし、どの地点も「未確定」とする。
- 手順2 未確定の地点のうち、距離が最小の地点(複数あれば番号が最小の地点)を選び、「確定」とする。
- 手順3 手順2で確定した地点に隣接する未確定の各地点について、確定した地点を経由した距離が現在の距離より小さければ、距離を更新し、直前の地点を記録する。
- 手順4 すべての地点が確定するまで、手順2と手順3を繰り返す。

問 1 次の文章中の空欄 **ア** **イ**，**ウ** **エ**，**オ**，**カ** に当てはまる数字をマークせよ。

手順を実行すると，地点 6 の最短距離は **ア** **イ** km，地点 5 の最短距離は **ウ** **エ** km となる。また，地点が確定する順に並べると，4 番目に確定するのは地点 **オ** である。手順 3 で距離が更新される回数は，全部で **カ** 回である。

問 2 次の文章を読み，空欄 **キ** ～ **コ** に入れるのに最も適当なものを，後の解答群のうちから一つずつ選べ。

N さんは，図 2 のプログラムを作成した。二次元配列 **Kyori** は道路の距離を表し，**Kyori**[**i**，**j**] は地点 *i* と地点 *j* の間の距離(直接結ぶ道路がなければ 999，*i* と *j* が等しければ 0)である。配列 **D** は地点 1 からの距離，配列 **Kakutei** は確定していれば 1，未確定であれば 0，配列 **Mae** は最短経路で直前に通る地点を表す。配列の添字は 1 から始まる。

```

(01)  n = 6
(02)  D = [0, 999, 999, 999, 999, 999]
(03)  Kakutei = [0, 0, 0, 0, 0, 0]
(04)  Mae = [0, 0, 0, 0, 0, 0]
(05)  k を 1 から n まで 1 ずつ増やしながら繰り返す:
(06)      |   saisho = 999
(07)      |   u = 0
(08)      |   i を 1 から n まで 1 ずつ増やしながら繰り返す:
(09)      |       |   もし Kakutei[i] == 0 and キ ならば:
(10)      |       |       |   saisho = D[i]
(11)      |       |       |   u = i
(12)      |       |   Kakutei[u] = 1
(13)      |       v を 1 から n まで 1 ずつ増やしながら繰り返す:
(14)      |       |   もし Kakutei[v] == 0 and Kyori[u, v] != 999
(15)      |       |       |   and ク < D[v] ならば:
(16)      |       |       |   D[v] = ク
(17)      |       |       |   Mae[v] = ケ
(17)  表示する (D)

```

図 2 最短距離を求めるプログラム

キ の解答群

- | | |
|---------------------------------|--|
| ① <code>D[i] > saisho</code> | ② <code>D[i] == 0</code> |
| ③ <code>D[i] < saisho</code> | ④ <code>Kyori[1, i] < saisho</code> |

ク の解答群

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| ① <code>D[v] + Kyori[u, v]</code> | ② <code>Kyori[u, v]</code> |
| ③ <code>D[u] + Kyori[1, v]</code> | ④ <code>D[u] + Kyori[u, v]</code> |

ケ の解答群

- | | | | |
|------------------|------------------|------------------|-----------------------|
| ① <code>v</code> | ② <code>u</code> | ③ <code>k</code> | ④ <code>Mae[u]</code> |
|------------------|------------------|------------------|-----------------------|

なお，図 2 の (09) 行目の条件で「<」の代わりに「<=」を用いると，距離が最小の地点が複数あるときに が選ばれるようになる。

の解答群

- | | |
|------------|----------------|
| ① 番号が最小の地点 | ① 地点 1 に最も近い地点 |
| ② 番号が最大の地点 | ③ どの地点も選ばれない |

問 3 次の文章を読み、空欄 **サ** に入れるのに最も適当なものを、後の解答群のうちから一つ選べ。また、空欄 **シ** に当てはまる数字をマークせよ。

プログラムの実行後、配列 **Mae** を用いると、地点 1 から地点 5 までの最短経路を求めることができる。地点 5 から始めて **Mae** の値をたどり、地点 1 に着いたら止めればよい。この方法で得られる最短経路は **サ** であり、経由する道路の本数は **シ** 本である。

サ の解答群

① $1 \rightarrow 6 \rightarrow 5$

① $1 \rightarrow 2 \rightarrow 4 \rightarrow 5$

② $1 \rightarrow 3 \rightarrow 4 \rightarrow 5$

③ $1 \rightarrow 3 \rightarrow 6 \rightarrow 5$

問 4 次の文章を読み、空欄 **ス** ・ **セ** に入れるのに最も適当なものを、
後の解答群のうちから一つずつ選べ。

図 2 のプログラムでは、地点の数を n とすると、(05) 行目の繰り返しの中で (08) 行目と (13) 行目の繰り返しがそれぞれ n 回ずつ実行される。したがって、全体の処理の回数はおよそ **ス** に比例する。

また、道路の距離に負の値が含まれる場合(例えば、通行すると料金が戻ってくる道路をコストとして扱う場合)には、この方法では正しい最短距離が求められないことがある。その理由は、**セ** からである。

ス の解答群

- ① n ② n の 2 乗 ③ n の 3 乗 ④ 2 の n 乗

セ の解答群

- ① 負の値は配列に格納できない
② 一度確定した地点の距離は変更されないが、後から負の距離の道路を経由するとさらに短くなる場合がある
③ 負の距離の道路は双方向に通行できない
④ 負の距離の道路があると、プログラムの繰り返しが終了しなくなる

問 5 次の文章中の空欄 **ソ** **タ** に当てはまる数字をマークせよ。

地点 3 と地点 6 を結ぶ道路が工事で通れなくなった。この道路を除いて再び最短距離を求めると、地点 5 の最短距離は **ソ** **タ** km となる。

第4問 次の文章を読み、後の問い(問1～6)に答えよ。(配点 25)

飲食チェーンのW社では、30店舗のデータを用いて、月間売上(万円)を説明する**重回帰分析**を行った。説明変数は、月間広告費(万円)、店舗面積(m^2)、最寄り駅からの徒歩時間(分)である。表1は、その結果(モデル1)である。

表1 モデル1の重回帰分析の結果

	係数	標準誤差	t 値
切片	137.49	25.33	5.43
広告費	4.20	0.47	8.92
面積	1.37	0.13	10.51
徒歩時間	－5.80	1.51	－3.85

決定係数 0.880 自由度調整済み決定係数 0.866

問 1 次の文章を読み、空欄 **ア** **イ** **ウ** に当てはまる数字をマークせよ。また、空欄 **エ** に入れるのに最も適当なものを、後の解答群のうちから一つ選べ。

モデル 1 を用いると、広告費 40 万円、面積 150m^2 、徒歩 5 分の店舗の月間売上の予測値は、小数第 1 位を四捨五入して **ア** **イ** **ウ** 万円となる。また、広告費の係数 4.20 は、**エ** ことを表している。

- **エ** の解答群 —
- ① 広告費を 1 万円増やせば、どの店舗でも必ず月間売上が 4.20 万円増える
 - ② 月間売上のうち 4.20% が広告費によって説明できる
 - ③ 面積と徒歩時間が同じ店舗どうしで比べると、広告費が 1 万円多い店舗は、月間売上が平均して約 4.20 万円多い
 - ④ 広告費は面積よりも 4.20 倍強く売上に影響する

問 2 次の文章を読み、空欄 **オ** ・ **カ** に入れるのに最も適当なものを、後の解答群のうちから一つずつ選べ。

Wさんは、三つの説明変数のうち、月間売上への影響が最も大きいものを知りたいと考えた。係数の大きさを直接比べるのは適当ではない。なぜなら、**オ** からである。そこで、各変数を平均 0、標準偏差 1 に変換してから分析し直したところ、係数は広告費 0.63、面積 0.72、徒歩時間 -0.27 となった。この結果から、影響が最も大きいのは **カ** であると考えられる。

オ の解答群

- ① 係数が負の変数が含まれている
- ② 標準誤差がすべて 1 未満である
- ③ 店舗の数が 30 しかない
- ④ 変数ごとに単位や散らばりの大きさが異なる

カ の解答群

- ① 広告費
- ② 面積
- ③ 徒歩時間

問 3 次の文章を読み、空欄 **キ** ～ **ケ** に入れるのに最も適当なものを、後の解答群のうちから一つずつ選べ。

Wさんは、説明変数に店舗の席数を加えたモデル2を作成した(表2)。席数と面積の散布図は図1のとおりであり、相関係数は0.98であった。

表2 モデル2の重回帰分析の結果

	係数	標準誤差	t値
切片	136.90	25.95	5.28
広告費	4.24	0.52	8.23
面積	1.23	0.70	1.76
席数	0.35	1.65	0.21
徒歩時間	－5.79	1.54	－3.77

決定係数 0.880 自由度調整済み決定係数 0.861

席数(席)

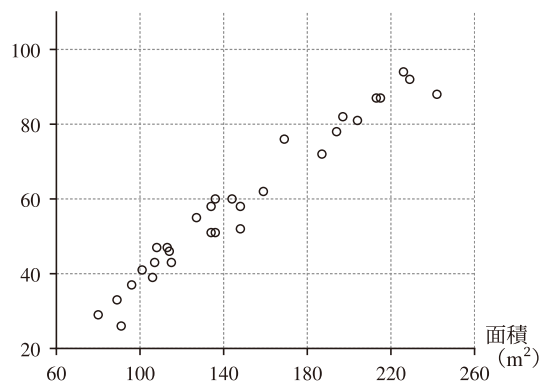


図1 面積と席数の散布図

モデル 2 では、面積の係数の標準誤差がモデル 1 の約 5 倍に大きくなり、 t 値は 10.51 から 1.76 に小さくなった。このように、互いに強い相関をもつ説明変数を同時に用いると、係数の推定が不安定になる。この現象を **キ** という。

また、モデル 2 の決定係数はモデル 1 とほぼ同じだが、自由度調整済み決定係数はモデル 1 より小さい。自由度調整済み決定係数を用いるのは、**ク** ためである。これらのことから、**ケ** と考えられる。

キ の解答群

- ① 過学習 ② 擬似相関 ③ 多重共線性 ④ 外れ値

ク の解答群

- ① 決定係数は負の値になることがある
② 決定係数は説明変数を増やすと(ほとんど役に立たない変数でも)小さくならないので、変数の数を考慮して比べる
③ 標準誤差の大きさを直接比べる
④ 説明変数の単位をそろえる

ケ の解答群

- ① 面積は売上に影響しないので、モデルから除くべきである
② 席数の係数が正なので、席数を増やせば必ず売上が増える
③ 決定係数がほぼ同じなので、どちらのモデルでも係数の解釈は同じである
④ 席数を加える必要はなく、モデル 1 を用いる方がよい

問 4 次の文章を読み、空欄 に当てはまる数字をマークせよ。

係数の t 値の絶対値がおよそ 2 以上であれば、その説明変数は売上と関係があると判断できるものとする。表 2 の四つの説明変数のうち、この基準を満たすものは 個である。

問 5 図 2 は、モデル 1 の予測値と残差(実際の売上－予測値)の散布図である。図 2 から読み取れることとして最も適当なものを、次の①～③のうちから一つ選べ。

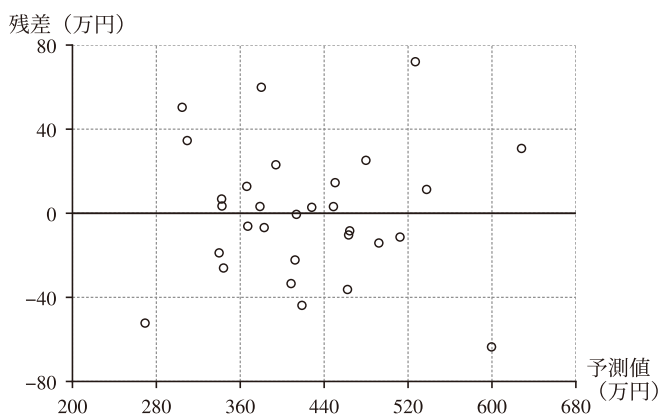


図 2 モデル 1 の予測値と残差

- ① 予測値が大きい店舗ほど、残差が必ず正になっている。
- ② 残差の絶対値が 100 万円を超える店舗が多数ある。
- ③ 残差は 0 の周りに特定の形をもたずに散らばっており、予測値の大小によって残差の傾向が変わる様子は見られない。

問 6 W 社では，駐車場の有無も売上に関係するのではないかと考え，駐車場がある店舗を 1，ない店舗を 0 とする変数を加えて分析した。その結果，この変数の係数は 35.0 であり， t 値は 3.1 であった。この結果の解釈として最も適当なものを，次の①～③のうちから一つ選べ。 シ

- ① 駐車場がある店舗の月間売上は，ない店舗の 35 倍である。
- ② 他の説明変数が同じ店舗どうして比べると，駐車場がある店舗は，ない店舗より月間売上が平均して約 35 万円多い。
- ③ 駐車場を新設すれば，どの店舗でも必ず月間売上が 35 万円増える。
- ④ 0 と 1 の値しかとらない変数は回帰分析に使えないので，この結果は意味をもたない。

(下 書 き 用 紙)

II 解答上の注意

- 1 解答は、解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークしなさい。例えば、第2問の **ア** と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の例のように問題番号 **2** の解答記号 **ア** の解答欄の③にマークしなさい。

例1

2	解 答 欄															
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	a	b	c	d	e	f
ア	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓓ	Ⓔ	Ⓕ

- 2 この試験では、選択肢から選んで答える問題と、解答欄の数字(0～9)又は文字(a～f)から選んで答える問題があります。各問題の指示に従って解答しなさい。
- 3 問題の文中の **イ**，**ウ** **エ** などの **□** に、数字(0～9)又は文字(a～f)を入れるよう指示された場合、**イ**，**ウ**，**エ**…の一つ一つは、これらのいずれか一つに対応します。それらを解答用紙の**イ**，**ウ**，**エ**…で示された解答欄にマークして答えなさい。

例2 **ウ** **エ** に 38 と答えたいとき

ウ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓓ	Ⓔ	Ⓕ
エ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓓ	Ⓔ	Ⓕ

- 4 同一の問題文中に **ア**，**ウ** **エ** などが2度以上現れる場合、原則として、2度目以降は、**ア**，**ウ** **エ** のように細字で表記します。

※この問題冊子は、大学入学共通テスト「情報Ⅰ」の過去の出題傾向をもとに作成した予想問題であり、独立行政法人大学入試センターが作成・公表したものではありません。また、問題中のデータは架空のものです。